

法大全共闘を先頭に、全国学園の内乱の展開へ！！

大学治安立法粉碎闘争の勝利へ！！

武装蜂起準備委員会・参謀本部政治局

☆ 全都・全国の革命的プロレタリア学友諸君！

ヴェトナム革命戦争と呼応する、日本プロレタリア階級闘争の尖端としての、「学園占拠・反乱闘争」を粉碎するために、日帝ブルジョア国家権力は、その公安弾圧機構（警備公安警察・検察・刑務所・裁判所・自衛隊）を飛躍的に増強しつつある。彼らは更に、危機に頻している学内ブルジョア教育管理秩序を防衛・復活するために、日共民青（法政、東大、立命を典型とする）、右翼ファシスト（日大を典型とする）の反革命武装突撃隊を動員した。

彼らは、更に芝浦工大などにおいては、「左翼」を自称する反革命的日和見主義潮流の指導する「全共闘」の支持協力のもとに、若干の議決と後退によって、学園占拠・反乱闘争を鎮静させるマヌーバを弄している。

☆ 日帝ブルジョア国家権力の、大学治安立法は、どうして彼らの尖端的公安弾圧を普遍化・全国化しようとする策動に他ならない。こうした策動を、「戦後民主主義の破壊！」としてとらえ、「民主主義防衛！」という方向で闘争目標を提出する潮流が存在する。これらの諸君は、「沖繩奪還！」などという、日帝ブルジョア国家の尻押しのスローガンを提出し、「反戦！」という小ブルジョア平和主義へとプロレタリア学生を歪曲してきた。

革命的プロレタリア学生は公然と宣言する。われわれは学園を占拠し、武力によって学園を制圧し、「学園の平和と民主主義的秩序」（東大・法政のごとき）をも、「ファシスト的秩序」（日大のごとき）をも、ぶち壊し、解体するまで。

☆ 恒常的学園占拠・反乱闘争と、その結節点としての幾たびかの街頭占拠・反乱闘争に対して、日帝ブルジョア国家権力は、その公安弾圧機構を増強した。こうした革命前の情勢の端初形態（大学治安立法もその一契機である）に対して、これを「なしくずしファシズム」として規定する諸君がいる。彼らのこの情勢規定はこの上なく明白な誤謬である。ファシズムは、革命前の情勢の成熟のち、すなわち「武装反乱」が、学園・街頭・工場経営・軍隊の内部に深化してゆくそうした局面において、プロレタリア学生を主たる敵の一つとして登場してくる。この誤謬の上に、これらの諸君は当面の戦術目標を「組織された暴力による、権力奪取をめざす、中央権力闘争」として提出する。この規定は、いわば「なしくずし」「武装蜂起（まさにプロレタリアートの「武装蜂起」は、反乱が学園・工場から、軍隊の内部へと深化したとき、この局面における、固有の闘争課題として断固として提出されなければならない）を語るにひとしい。

諸君、日本のプロレタリア学生は、いまだ「端初的武装反乱」の局面に突入したにすぎない。「なしくずしファシズム」を克服する諸君のこの誤謬はきわめて急速に、決定的に克服されなければならない。

☆ 全都・全国の革命的プロレタリア学友諸君！

現瞬間における日本プロレタリアートの前衛的課題をどこに求めるべきか。まさにそれは「学園占拠を学園の内乱へ」として提起されている。そしてこの課題は、一九六九年四月六月における法政大学全共闘プロレタリア革命派によって鋭く突き出されている。安保粉碎・沖繩解放・ASPAO粉碎という政治課題へと学内個別要求を出場しつつ、学園を占拠し、且つ主要打撃を、学内ブルジョア秩序維持・復活を目標とする、学内反革命日共民青武装突撃隊の「潰滅」へと向けること。学内武装反革命と、国家権力、その尖兵としての警察部隊を、同時に主敵とする「二正面作戦」の誤謬を克服すること。

「開始」された武装反乱闘争のこの局面において、日帝ブルジョア国家権力は、次のように基本方向を提出している。すなわち、個々の武装反乱闘争に対して、彼らの動員しうる一切の勢力を集中すること。この集中打撃によって、反乱の主体にセンメツ的打撃を加えること。

すでにこの意味において、彼らは「平和と民主主義」の時代、すなわち、非革命的情勢の局面における階級闘争のルールを容赦なく破壊している。

この方向に沿って、彼らは、一切の公権力、日共民青・右翼ファシスト武装部隊、マスコミ機関を出動させている。更に彼らはからめ手からも部隊を派遣する。一見反乱主体に同情的な顔をつくり、内部から反乱者を粉碎する、小田実・羽仁五郎、といった反革命忍辱者集団をも利用している。

革命的プロレタリア学友諸君！ われわれは次の二つのことを、鮮明に自覚しなければならない。